

分野6 産業の活力とにぎわいのあふれるまち「ながの」(産業・経済分野)

政策1 魅力を活かした観光の振興

施策1 豊富な観光資源等を活かした観光交流促進 …施策番号 39

施策2 インバウンドの推進 …施策番号 40

施策3 コンベンションの誘致推進 …施策番号 41

政策2 活力ある農林業の振興

施策1 多様な担い手づくりと農地の有効利用の推進 …施策番号 42

施策2 地域の特性を活かした生産振興と販売力強化の促進 …施策番号 43

施策3 森林の保全と資源の活用促進 …施策番号 44

政策3 特色を活かした商工業の振興

施策1 商工業の強化と環境整備の促進 …施策番号 45

施策2 地域の特性が光る商工業の推進 …施策番号 46

施策3 新たな活力につながる産業の創出 …施策番号 47

政策4 安定した就労の促進

施策1 就労の促進と多様な働き方の支援 …施策番号 48

施策2 勤労者福祉の推進 …施策番号 49

6-1-1

1 施策の概要

施策番号	39 (6-1-1)		分野	産業・経済分野	担当部局	商工観光部
政策	魅力を活かした観光の振興		担当課	観光振興課		
施策	豊富な観光資源等を活かした観光交流促進					
施策の目指す状態	豊富な観光資源を活かし、観光客でにぎわい観光消費額が増加している。					



※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会					環境					経済				全体実施手段		
	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	10 不平等	16 平和	6 水・衛生	7 エネルギー	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	8 経済成長と雇用	9 イノベーション		11 持続可能な都市	12 生産と消費
							○						○				○

2 指標の推移等

内容	単位	基準値	後期基本計画期間中の実績値					目標値 (R8)					
			R4	R5	R6	R7	R8						
アンケート指標	環境・体制に関する評価①	長野市は、魅力的な観光都市である	%	(R3) 64.0	70.9							↑	
	R4年度実績値の理由	関係団体と連携し、WebサイトやSNS等を活用して効果的に観光宣伝を実施した。											
	回答者自身の実践状況①	知人や友人などに地域の魅力を伝えている	%	(R3) 33.1	31.8								↑
	R4年度実績値の理由	関係団体と連携し、WebサイトやSNS等を活用して効果的に観光宣伝を実施した。											
統計指標	市内観光宿泊者数(年)	観光庁「宿泊旅行統計調査」に基づく市内宿泊者数の推計	万人泊	(R2) 103.1	258.5							160.1	
	R4年度実績値の理由	観光振興課	善光寺の御開帳が1年延期されて開催されたことに加え、新型コロナウイルスによる影響が小さくなってきたため。										
	観光消費額	一人当たりの観光消費額の推計	円	(R2) 12,497	17,467							12,591	
	R4年度実績値の理由	観光振興課	善光寺の御開帳の開催に加え、新型コロナウイルスによる影響が小さくなり、観光消費額に大きく影響する市内宿泊者数が増加したため。										
	観光入込客数	市内の主な観光地(11箇所)への入込客数の総計	万人	(R2) 448.5	1,334.5							1,092	
R4年度実績値の理由	観光振興課	善光寺の御開帳が1年延期されて開催されたことに加え、新型コロナウイルスによる影響が小さくなってきたため。											

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R4年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	令和4年度は、善光寺御開帳の開催に合わせ、デジタルスタンプラリーや「R東日本が実施する交通型MaaSへの参加など、様々な誘客促進事業に取り組んだ結果、各目標値を大きく超えることとなった。また、アフター御開帳対策として、新たな観光スタイルとして注目されているアウトドア観光を促進するため、(公財)ながの観光コンベンションビューローや各観光協会と連携し、Eバイクのコースやツアーの造成したほか、飯綱高原「森の駅daizahoushi」では、冬の観光コンテンツとして、こたキャンやアウトドアサウナ、新たな食事メニューの開発などを実施した。
---	--

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題(該当ゴール及び三側面のバランス)
アフターコロナにおいて、多様なニーズを持つ観光客の消費行動を促進させるため、新たな観光スタイルに対応する魅力的なコンテンツの開発が必要がある。	観光消費額を増加させることで、地域経済の活性化を図り、持続可能な観光都市となるような取組を実施していく必要がある。
上記課題の解決に向けて必要なこと(課題解決に向けてやるべきこと)	
(公財)ながの観光コンベンションビューローや各観光協会と連携し、新たな観光コンテンツの開発・推進のほか、継続的かつ効果的な観光情報の発信を強化する。	

6-1-2

1 施策の概要

施策番号	40 (6-1-2)	分野横断 テーマ① まち	分野横断 テーマ② ひと	分野横断 テーマ③ しごと	
分野	産業・経済分野	担当部局	商工観光部		
政策	魅力を活かした観光の振興	担当課	観光振興課		
施策	インバウンドの推進				
施策の 目指す状 態	外国人観光客の誘客に向けた効果的な情報発信を行うとともに、充実した受入環境の下で外国人観光客が快適に滞在している。				

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会							環境					経済				全体
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
	1	2	3	4	5	10	16	6	7	13	14	15	8	9	11	12	17
							○						○	○			○

2 指標の推移等

内 容	単位	基準値	後期基本計画期間中の実績値					目標値 (R8)
			R4	R5	R6	R7	R8	
環境・体制に関する評価① 〔再掲：長野市は、魅力的な観光都市である〕	%	(R3) 64.0	70.9					↑
R4年度実績値の理由	新型コロナウイルスの影響で落ち込んでいた観光客は徐々に回復してきており、併せて観光客のV字回復を狙い、長野市の魅力を国内外にPRできた。							
回答者自身の実践状況①	%	(R3) 33.0	33.7					↑
R4年度実績値の理由	特にシニア世代では、コミュニケーションの点で外国人観光客の手助けに躊躇する人もいる。年により多少の増減はあるが、約3割の市民に、外国人観光客に対する「おもてなし」の意識が浸透している。							
統計指標 市内外国人宿泊者数 (年)	人泊	(R2) 24,344	R5. 12予定					105,671
R4年度実績値の理由	観光振興課	外国人宿泊者数の実績において、新型コロナウイルスおよび政府の水際対策の影響により、新型コロナウイルス感染拡大前と比較して、大きく減少している。						

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R4年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	令和4年度で5年目となる外国人観光客を積極的に誘客するためのイベント「長野デザインウィーク」を、善光寺表参道エリアで実施した。 市長のトップセールスとして、本市の魅力を市長が自らPRする動画を制作、国内外に発信した。 金沢市や近隣市町村と連携し、アジアや欧米豪に向けてファミトリップや商談会の実施等のプロモーション活動を行い、ツアー造成に向けて働きかけた。 訪問時・滞在時に快適な観光をしていただけるよう、外国人観光客向け飲食店紹介サイト、パンフレットの整備を行った。Wi-Fi環境については、必要な地点への整備が進んできたことから、令和4年度は新たな地点への整備は見送った。
---	---

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題 (該当ゴール及び三側面のバランス)
アフターコロナのインバウンド需要を取り込める魅力的なコンテンツがあり、それらの情報発信がされている。また、外国人観光客が訪れた際に快適に滞在できる環境が整っている状態。 外国人宿泊者数の指標達成のために、コンテンツ開発、受入環境整備、セールスをバランス良く実施する必要がある。	人口減少等が見込まれるなか、アフターコロナのインバウンド需要を取り込むことで交流人口の増加を図り、市内の経済を喚起させる必要がある。
上記課題の解決に向けて必要なこと (課題解決に向けてやるべきこと)	
外国人旅行者の興味をひく魅力的な企画の実施、テーマ毎に強みを持つ地域と広域で連携した効果的なプロモーション、受入環境の整備により来訪を促していく。その来訪者に対し、アンケート調査等を実施して長野市固有の課題の抽出を図ることなどにより、PDCAサイクルを確立し、課題抽出と改善を積み重ねる体制とする必要がある。	

6-1-3

1 施策の概要



施策番号	41 (6-1-3)		担当部局	商工観光部
分野	産業・経済分野		担当課	観光振興課
政策	魅力を活かした観光の振興			
施策	コンベンションの誘致推進			
施策の目指す状態	多様なコンベンションが開催され、参加者でにぎわっている。			

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会							環境					経済			全体	
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
	1	2	3	4	5	10	16	6	7	13	14	15	8	9	11	12	17
							○						○			○	○

2 指標の推移等

内容	単位	基準値	後期基本計画期間中の実績値					目標値 (R8)	
			R4	R5	R6	R7	R8		
環境・体制に関する評価①	%	(R3) 34.4	43.6					↑	
R4年度実績値の理由	前年に比べ、新型コロナウイルスによるイベント等の中止が減少したため。								
回答者自身の実践状況①	-	(R3) -	-	-	-	-	-	-	
R4年度実績値の理由									
統計指標	コンベンションの参加者数	ながの観光コンベンションビューローが誘致・支援したコンベンションへの参加者数	人	(R2) 10,220	65,867				120,000
R4年度実績値の理由	観光振興課	前年に比べ、新型コロナウイルスによるイベント等の中止が減少したため。							

3 目標達成に向けた取組内容と実績




R4年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの感染拡大を理由とするイベント等の中止・縮小や誘客活動の制限はあったものの、市内経済の活性化のため、感染拡大防止に配慮しながらコンベンション等を誘致した。 ・コンベンション開催助成金の助成額を増額した。 ・コンベンションに関する各種ガイドブックや専用サイトの情報を適宜最新のものに更新した。
---	---

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題（該当ゴール及び三側面のバランス）
<ul style="list-style-type: none"> ・（公財）ながの観光コンベンションビューローや各観光協会との連携を更に強化し、多くのコンベンションを誘致することで、参加者が大会前後に長く市内に滞在していただき、地域経済への波及を高める必要がある。 	多くのコンベンションを誘致し、賑わいを創出することで、持続可能な地域経済の活性化を図っていく必要がある。
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
<ul style="list-style-type: none"> ・市内や外郭団体に対して、コンベンションの開催予定に関する調査を行い、その回答をもとに、（公財）ながの観光コンベンションビューローと連携してコンベンション開催に向けた分野横断型の誘致活動を行う。 ・観光振興計画に基づき、オリンピック関連施設や芸術館等を積極的に活用し、国内外の各種コンベンションやスポーツ大会、イベント等の誘致を推進し、本市への誘客とにぎわいの創出につなげる。 	

6-2-1

1 施策の概要

施策番号	42 (6-2-1)	  	
分野	産業・経済分野	担当部局	農林部
政策	活力ある農林業の振興	担当課	農業政策課
施策	多様な担い手づくりと農地の有効利用の推進		
施策の目指す状態	農地が有効に利用され、専業農家のほか多様な担い手が農業に取り組んでいる。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会						環境					経済				全体	
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
	1	2	3	4	5	10	16	6	7	13	14	15	8	9	11	12	17
		○					○						○	○	○		○

2 指標の推移等

内容	単位	基準値	後期基本計画期間中の実績値					目標値 (R8)	
			R4	R5	R6	R7	R8		
アンケート指標 環境・体制に関する評価① 高齢者や女性がいきいきと農業に従事し、最近では若者が農業をする姿も見受けられる R4年度実績値の理由 30～50歳代で肯定的回答の割合が高くなっており、身近で農業に携わる方や耕作者が増えているなどの意見も多く、農業に関わる市民が増えていることを実感できる状況にある。	%	(R3) 25.6	31.8						↑
回答者自身の実践状況① 野菜や果物づくりなどを楽しんでいる R4年度実績値の理由 60歳以上の世代で、家庭菜園や小規模ながら畑で、自ら野菜や果樹などをとつとつしていると意見も多く、家庭菜園などを通じて農作物栽培に親しむ方が一定数いる。	%	(R3) 42.4	42.2						↑
統計指標 地域の中心経営体数 人・農地プランに掲載されている者の数 R4年度実績値の理由 農業政策課 農地中間管理事業の利用者が増えているため人数が増加した。	人	(R2) 629	763						671
農地の利用権設定面積 農業委員会事務局農地情報公開システム登録面積 R4年度実績値の理由 農業政策課 農業者の高齢化や後継者不足に伴い、担い手への権利移動が進み利用権設定面積が増加した。	ha	(R2) 752.7	862.9						992.7

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R4年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・農地中間管理事業などの実施により、中心経営体への農地の集約を進め、新規就農者に対する相談体制を充実させて、新たな担い手の確保も進めた。 ・新規就農者への研修資金・営農資金の助成による支援を進めるとともに親元就農者支援事業により地域の中心的な農業の担い手である認定農業者の子弟の就農促進を行った。 ・農業研修センターにおいて、農業に携わりたい人や企業まど、多様な人材を新たな担い手として育成するため、研修コースごと野菜栽培の技術指導等を行った。
---	--

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題 (該当ゴール及び三側面のバランス)
<ul style="list-style-type: none"> ・「地域計画」(旧「人・農地プラン」)の策定に向けた取組み ・新規就農者及び認定農業者の確保育成 ・農業の多様な担い手の確保育成 	持続可能な食料生産システムの確保に向け、次世代を担う就農者の確保育成と担い手への農地の集積・集約による農地の遊休荒廃化の抑止
上記課題の解決に向けて必要なこと (課題解決に向けてやるべきこと)	
<ul style="list-style-type: none"> ・農業の担い手の掘り起し、農地貸出しや農業の継承希望を把握し、長野市農業公社との連携により、更なる農地流動化を推進する。 ・新規就農者及び認定農業者への支援制度の周知と経営改善指導や栽培技術支援などのフォローアップを行う。 ・農業研修センターでの技術研修を充実する。 	

6-2-2

1 施策の概要

施策番号	43 (6-2-2)	分野横断 テーマ1 まち	分野横断 テーマ2 ひと	分野横断 テーマ3 しごと
分野	産業・経済分野	担当部局	農林部	
政策	活力ある農林業の振興	担当課	農業政策課	
施策	地域の特性を活かした生産振興と販売力強化の促進			
施策の 目指す状態	りんご、もも、ぶどうなどの高品質で安全・安心なおいしい農産物が生産され、高い評価を得ている。			

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会						環境					経済				全体	
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
		○					○						○	○		○	○

2 指標の推移等

内容	単位	基準値	後期基本計画期間中の実績値					目標値 (R8)		
			R4	R5	R6	R7	R8			
環境・体制に関する評価①	りんご、もも、ぶどうなどの、おいしい農産物が生産されている地域である	%	(R3) 92.0	91.7						→
R4年度実績値の理由	18～19歳及び70歳以上を除く全世代で90%が肯定的な評価をしており、良質な果樹産地であることの認知の高さは市民に浸透している。									
回答者自身の実践状況①	地元産の農作物を買うように心がけている	%	(R3) 84.0	80.4						→
R4年度実績値の理由	高齢者世代ほど、新鮮で安心な地元産作物への肯定的意見が多く、地元産に対する意識は高いが、20～30歳代では地元産よりも価格優先の傾向が出ていることの影響がみられる。									
果樹の新品種・新技術導入による栽培面積	りんご新わい化、ぶどう新品種の栽培面積推計値	ha	(R2) 120.5	176.8						180.5
R4年度実績値の理由	農業政策課	りんご新わい化栽培推進事業やぶどう新品種推進事業の推進により栽培面積が拡大した。								
市の農業生産額	市内で生産される農作物の生産額推計値の令和3年度から5年間の累計	億円	(R2) 192.6	191.9						1,020
R4年度実績値の理由	農業政策課	栽培きのこの生産量減少、価格下落により前年比減となった。								

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R4年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・農作業の省力化及び多収化を図るため、りんごの「新わい化栽培」の導入を支援した。 ・高収入が見込まれるシャインマスカット等のぶどうの栽培面積の増加を図るため、ぶどう新品種推進や振興果樹等苗木導入等に係る補助金を交付した。 ・地域奨励作物（小麦・大豆・そば・枝豆）に対し補助金を交付し、生産量を増やすとともに、農地の遊休荒廃化を抑制し、地産地消を推進した。 ・本市産果樹のブランド化を目指すため、「長野市産果樹ブランド化戦略」を策定した。
---	---

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題（該当ゴール及び三側面のバランス）
<ul style="list-style-type: none"> ・農業の後継者不足、農業従事者の高齢化の進行 ・本市農業の主体である果樹の生産性向上及び高付加価値 ・農地の遊休荒廃化防止及び中山間地域農業の振興 	農業生産活動のイノベーションを支援するため、新品種・新栽培技術の導入を促すとともに、スマート農業の取り組みを進める。
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
<ul style="list-style-type: none"> ・りんごの新わい化の導入による省力化及び、ぶどう等の新新種の苗木の導入等による生産性の向上。 ・地域奨励作物（小麦・大豆・そば・枝豆）に対する補助金交付の継続。 ・中山間地地域優良農地復元事業などの活用による遊休荒廃農地の農地復元を支援する。 ・主に県外での本市の果樹産地イメージ浸透化、ブランドの確立を図る。 	

6-2-3

1 施策の概要

施策番号	44 (6-2-3)	分野横断 テーマ① まち	分野横断 テーマ③ しごと
分野	産業・経済分野	担当部局	農林部
政策	活力ある農林業の振興	担当課	森林いのしか対策課、新産業創造推進局
施策	森林の保全と資源の活用促進		
施策の 目指す状 態	森林が守り育てられ、森林資源が有効に活用されている。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会						環境					経済				全体	
	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	10 不平等	16 平和	6 水・衛生	7 エネルギー	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	8 経済成長と雇用	9 インノベーション	11 持続可能な都市	12 生産と消費	17 実施手段
							○		○			○	○	○	○		○

2 指標の推移等

内 容	単位	基準値	後期基本計画期間中の実績値					目標値 (R8)	
			R4	R5	R6	R7	R8		
環境・体制に関する評価① 森林が整備されている地域である	%	(R3) 41.7	41.5						↗
R4年度実績値の理由	森林整備は単年度で結果が表れるものではなく評価自体もしにくいいため、アンケート回答者の違いによる主観の差が評価に影響していると思われる。長期的な評価が向上するよう継続的な事業実施に努めたい。								
回答者自身の実践状況①	(設定なし)	-	-	-	-	-	-	-	-
R4年度実績値の理由									
統計指標 搬出間伐による木材生産量	県・市への木材生産補助申請実績	m ³	(R2) 9,773	10,409					15,000
R4年度実績値の理由	森林いのしか対策課	林業事業者と協力して、整備を行う森林を集約化した結果							

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R4年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> 森林所有者や整備する森林の調査を林業事業者と協力して行った。 森林整備を実施する林業事業者をフォレストワーカー育成事業により支援した。 市産材普及事業により庁舎や保育園等に、ベビーサークルやベンチ等の木製品を設置した。 森林とのふれあいを進めるため、スプーンなどを作るグリーンウッドワークの体験などを実施した。
---	--

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題 (該当ゴール及び三側面のバランス)
<ul style="list-style-type: none"> 木材価格の低迷による森林所有者の森林整備への意欲の低下 森林の境界や、所有者不明地の増加 林業の担い手の減少 手入れの遅れた森林と伐採時期を迎えた森林の増加 	再生可能な木材資源の有効活用を推進するため、持続可能な経営管理が必要である。
上記課題の解決に向けて必要なこと (課題解決に向けてやるべきこと)	
令和4年12月に策定した長野市森林経営管理計画に基づき以下の4つの基本方針により森林整備を進める。 <ul style="list-style-type: none"> 森林整備の推進 林業従事者の確保・育成と先端技術の導入 森林とのふれあいの促進 木材利用の普及 	

6-3-1

1 施策の概要

施策番号	45 (6-3-1)			
分野	産業・経済分野	担当部局		商工観光部
政策	特色を活かした商工業の振興	担当課		商工労働課
施策	商工業の強化と環境整備の促進			
施策の目指す状態	持続可能で足腰の強い商業活動や工業生産が展開され、地域外からの利益が取り込まれている。			

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会				環境				経済				全体				
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
							○						○	○			○

2 指標の推移等

内容	単位	基準値	後期基本計画期間中の実績値					目標値 (R8)
			R4	R5	R6	R7	R8	
環境・体制に関する評価① 市内に個性的で魅力的なお店が増えている	%	(R3) 37.3	42.2					↗
R4年度実績値の理由	コロナ禍の後、リノベーションなどにより個性的な店舗が増えた結果、すべての世代で前年に比べて肯定的な回答が増加したため。							
環境・体制に関する評価② 活力のある企業が多い地域である	%	(R3) 30.1	29.9					↗
R4年度実績値の理由	40歳代、50歳代を除くすべての世代に比べて否定的な回答が増加したため。							
回答者自身の実践状況① 地元のお店で買い物をするように心がけている	%	(R3) 79.9	80.3					→
R4年度実績値の理由	地元発展のためという意見がある一方、安価な商品を求めて郊外へ出るなどの意見もあるなど、前年と同様の傾向である。							
統計指標 長野市1世帯あたりの市内での月間消費支出額	円	(R2) 132,759	132,759					160,000
R4年度実績値の理由	商工労働課	直近で実施された令和2年の実績値は132,759円となっている。						
統計指標 製造品出荷額等(年)	億円	(R2) 5,938	5,775					6,802
R4年度実績値の理由	商工労働課	直近で実施された令和3年度調査の実績値は5,775億円となっている。						

3 目標達成に向けた取組内容と実績


R4年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・街路灯維持管理事業 (R4→3件) ・商店街電灯料助成事業 (R4→52件) ・賑わい演出事業補助金 (R4→12件) ・ものづくり支援センターに配置したインキュベーションマネージャーが積極的に企業を訪問するなどして、企業の研究開発に対する補助金の活用を促すとともに国の開発補助金の申請の相談を行うなどものづくり企業への支援を行った。また、企業のデジタル活用の相談に対応するため、産学連携ITコーディネーターを新規に委嘱した。 ・金融機関に資金を預託し、中小企業等に、その事業活動、事業転換及び創業や災害支援など必要な資金の融資を行っている。 ・小規模事業者のIT化・デジタル化による生産性の向上を図るため、長野市小規模事業者IT機器等導入支援事業補助金を交付している。令和4年度は令和3年度及び令和2年度の交付事業者に対してアンケート調査を実施し、今後のフォローアップにつなげていくため、機器等の活用状況を把握した。
---	---

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題 ・商工業活動が将来に渡って持続していくために、商工業者の経営基盤の強化、地域に密着した商業環境を整備していく必要がある。 ・企業の事業継続や生産性の向上につなげていくため、デジタル技術の活用によるDXやその前提となるデジタル化について支援していく必要がある。	SDGsの視点からの課題(該当ゴール及び三側面のバランス) ・商工業活動が持続するための経営基盤強化や環境整備の支援を行っていく必要がある。 ・市内企業の生産性向上のため、デジタル技術の活用によるDXやその前提となるデジタル化について支援していく必要がある。
上記課題の解決に向けて必要なこと(課題解決に向けてやるべきこと)	
・地域の商店街団体については、今後は老朽化しつつある街路灯維持管理に対する支援や、街の防犯、安全のためのニーズが増えていくと考えられ、継続的な支援を行っていく。 ・市内企業のデジタル技術の活用によるDXや、その前提となるデジタル化について、計画の策定から実行まで段階を踏まえて幅広く支援を行っていく。	

6-3-2

1 施策の概要

施策番号	46 (6-3-2)		
分野	産業・経済分野	担当部局	商工観光部
政策	特色を活かした商工業の振興	担当課	商工労働課
施策	地域の特性が光る商工業の推進		
施策の目指す状態	中心市街地、中山間地域などの地域ごとにある様々な特性を活かし、商工業に活気があり、まちがにぎわうとともに、本市の特長を活かした新製品・新技術が開発され、企業活動が活性化している。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会				環境				経済				全体				
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
	1	2	3	4	5	10	16	7	13	14	15	8	9	11	12	17	
							○						○	○		○	○

2 指標の推移等

内 容	単位	基準値	後期基本計画期間中の実績値					目標値 (R8)
			R4	R5	R6	R7	R8	
環境・体制に関する評価① 〔再掲：市内に個性的で魅力的なお店が増えている〕	%	(R3) 37.3	42.2					↑
R4年度実績値の理由	コロナ禍の後、リノベーションなどにより個性的な店舗が増えた結果、70歳代を除くすべての世代で前年に比べて肯定的な回答が増加したため。							
環境・体制に関する評価② 〔再掲：活力のある企業が多い地域である〕	%	(R3) 30.1	29.9					↑
R4年度実績値の理由	40歳代、50歳代を除くすべての世代に比べて否定的な回答が増加したため。							
回答者自身の実践状況① 〔再掲：地元のお店で買い物をするように心がけている〕	%	(R3) 79.9	80.3					→
R4年度実績値の理由	地元発展のためという意見がある一方、安価な商品を求めて郊外へ出るなどの意見もあるなど、前年と同様の傾向である。							
統計指標 長野市1世帯あたりの市内での月間消費支出額（再掲：施策番号45）	億円	(R2) 132,759	133					160,000
R4年度実績値の理由	商工労働課	直近で実施された令和2年の実績値は132,759円となっている。						
統計指標 製造品出荷額等（年）（再掲：施策番号45）	億円	(R2) 5,938	5,775					6,802
R4年度実績値の理由	商工労働課	直近で実施された令和3年度調査の実績値は5,937億円となっている。						

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R4年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社まちづくり長野のまちづくり活動（非営利部門）を支援するための運営補助金を交付。 後継者育成、また販路拡大を支援するための補助金を交付。 中小企業者が企業価値の算定、事業承継計画の策定など、事業承継に向け各種の専門家に依頼する経費等について 助成する「事業承継促進補助金」により、中小企業者の事業承継に対して補助金を交付し、事業継続を支援。 企業と研究機関等が共同で行う研究開発事業に対し、ものづくり研究開発事業補助金を交付し、新技術開発の支援を行った。
---	---

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題（該当ゴール及び三側面のバランス）
<ul style="list-style-type: none"> 本市の人口は減少基調であり、今後、空き店舗の増加、後継者不足、通行量の減少など、地域の賑わいと魅力の低下が懸念される。一方で「信州・長野」のブランド力は全国でも高く、地域の魅力や特性を活かし、関係機関等と連携を図りながら集客や販売を促進していく必要がある。 「長期戦略2040」のビジョン実現につながる新技術等の創出や、既存企業の成長につながるよう支援を行っていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業活動に伴う環境負荷の低減を図る必要がある。 事業継続につながる人材育成等の支援を行っていく必要がある。 産学官が連携してイノベーションの創出を一層進めていく必要がある。
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
<ul style="list-style-type: none"> 中心市街地の集客力を高めて賑わいを創出するため、まちづくり会社等と連携して効果的な対策を検討する。 本市の特色ある工芸品や物産品を観光資源と絡めて紹介することで、販路の拡張と市内への誘客を図る。 地域企業の特性を生かした新技術の開発や販路の開拓といった支援制度により、企業活動を支援していく。 	

6-3-3

1 施策の概要



施策番号	47 (6-3-3)		担当部局	商工観光部
分野	産業・経済分野		担当課	商工労働課、新産業創造推進局
政策	特色を活かした商工業の振興			
施策	新たな活力につながる産業の創出			
施策の目指す状態	自然の循環と経済の発展を両立させる、長野らしい産業の創造に向け、創造性豊かな人材や企業が集積し、オープンイノベーションや起業・創業などの動きが始まっている。			

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会							環境				経済				全体	
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
	1	2	3	4	5	10	16	6	7	13	14	15	8	9	11	12	17
							○						○	○			○

2 指標の推移等

内容	単位	基準値	後期基本計画期間中の実績値					目標値 (R8)	
			R4	R5	R6	R7	R8		
環境・体制に関する評価① 新しいお店や会社を興そうとする人が増えてきている	%	(R3) 40.0	31.0						↗
R4年度実績値の理由	年代が上がるにつれ、否定的な回答が多くなる傾向であるため。								
回答者自身の実践状況①	(設定なし)	(R3) -	-	-	-	-	-	-	-
R4年度実績値の理由									
統計指標 大学等と共同で新技術・新製品の開発を行う件数	件	(R2) 45	51						62
R4年度実績値の理由	商工労働課	企業が新技術・新製品の開発のため積極的に研究開発や設備投資を行う傾向にあり、事業件数は順調に伸びている。							

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R4年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街団体が実施する商店街の販売促進事業につながるイベントに対し補助金を交付した。 ・中心市街地の空き店舗、空き家等を活用して出店する者が実施する出店の取組に対して補助金を交付した。 ・市内の既存工業用地が限られるため、新たな産業用地の開発に引き続き取り組むとともに、市内企業のDXなど生産性向上にも期待が寄せられるICT産業の企業誘致に引き続き取り組んだ。 ・スタートアップをはじめとする起業・創業につながるよう、スタートアップを理解するセミナー、アイデアピッチ等の各種イベントを行うほか、事業構想段階から起業後間もないスタートアップ等に対する伴走支援などを随時実施することで、創業者数の増加に取り組んだ。
---	--

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題 (該当ゴール及び三側面のバランス)
<ul style="list-style-type: none"> ・個人消費の低迷、経営者の高齢化、後継者不足、消費者の購入経路の多様化等により、商店街の空き店舗等が増加し、商店街の活力が低下しているため、来街者を増加させ、まちの賑わいを創出していく必要がある。 ・用地、オフィス、雇用の確保など、進出拡大意欲を持つ企業のニーズに寄り添った企業誘致をしていく必要がある。 ・引き続き起業を目指す方の段階に応じた支援をきめ細かく行いながら、新産業の担い手となる新たなプレーヤーの育成等を強化していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な産業の担い手を生み出し雇用を含む経済の持続性を担保するエコシステムの構築につながる活動を、引き続き支援していく必要がある。
上記課題の解決に向けて必要なこと (課題解決に向けてやるべきこと)	
<ul style="list-style-type: none"> ・住民や観光客の誘客を促進する取組や、街なかの賑わいを創出する取組等を行う商店街団体等を支援する。 ・信州ITバレー構想や「長期戦略2040」を踏まえた企業誘致戦略を進めていく。 ・起業意識醸成や企業の準備段階から起業後間もない起業家への支援等、スタートアップをはじめとする産業の新たな担い手の創出に取り組む。 	

6-4-1

1 施策の概要

施策番号	48 (6-4-1)		
分野	産業・経済分野	担当部局	商工観光部
政策	安定した就労の促進	担当課	商工労働課
施策	就労の促進と多様な働き方の支援		
施策の目指す状態	企業の特長や求人に関する情報が容易に入手でき、働き方改革が推進されるなどの多様な働き方が可能になることで、就労が促進されるとともに、様々な人が就労しやすい環境が整備されている。		



※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会							環境					経済				全体	
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段	
	1	2	3	4	5	10	16	6	7	13	14	15	8	9	11	12	17	
				○	○	○	○											○

2 指標の推移等

内容	単位	基準値	後期基本計画期間中の実績値					目標値 (R8)				
			R4	R5	R6	R7	R8					
環境・体制に関する評価①	仕事を見つけやすい環境が整っている	%	(R3) 13.7	16,4							↗	
R4年度実績値の理由	ハローワークやインターネットなどで求人情報が取得しやすい点は全世代で肯定的に評価されている。自分を活かせる職場・希望の職種が見つけれない点是否定的評価が多い。											
回答者自身の実践状況①	(設定なし)	-	(R3) -	-	-	-	-	-	-	-	-	
R4年度実績値の理由												
統計指標	推計就業者数	課税資料のうち、給与支払報告書や確定申告書、市・県民税申告書を有する者の人数を「推計就業者数」として推計	人	(R2) 207,648	206,701							210,000
R4年度実績値の理由	商工労働課	若年層の人口減少やコロナ禍により、就業者数は減少した。										

3 目標達成に向けた取組内容と実績


R4年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> 若者のUJIターン就職促進を図るため、長野地域若者就職促進協議会による就職情報サイト「おしごとながの」の運営をはじめ、長野地域の企業と若者をつなげる場「ナガノのシゴト博」を3年ぶりに対面開催し、多くの若者に地元で働く魅力を発信した。 就職氷河期世代を対象とした心理カウンセリングを令和4年8月から開始した。 高齢者の社会参加の観点から、長野市生涯現役促進協議会では国の事業を受託し、年齢に関わらず活躍できる社会の実現を目指して、就労支援セミナーの開催や就労相談会の実施、シニア人材の活用推進に取り組んだ。
---	--

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題 (該当ゴール及び三側面のバランス)
<ul style="list-style-type: none"> SNSなど様々なツールを活用し、広く情報を発信することで多くの参加者を呼び込み、参加者と企業とのマッチングを推進させる。 求職者が就職情報サイト「おしごとながの」を利用し、仕事が容易に探せるように求人情報や企業情報の登録を呼びかけるとともに、利用しやすいシステムの改修を進める。 	高齢者や女性、就職氷河期世代などのニーズに応じた働き方を実現するとともに、雇用とのマッチングを進めるには、市だけでなく国や県と連携を図っていく必要があり、企業への支援も必要である。
上記課題の解決に向けて必要なこと (課題解決に向けてやるべきこと)	
<ul style="list-style-type: none"> 常に就職採用活動の傾向を把握し、イベントをはじめとした発信の内容や方法を適宜見直しながら様々なニーズに添った就労の促進を図る。 	

6-4-2

1 施策の概要

施策番号	49 (6-4-2)		
分野	産業・経済分野	担当部局	商工観光部
政策	安定した就労の促進	担当課	商工労働課
施策	勤労者福祉の推進		
施策の目指す状態	中小企業の福利厚生や研修の機会が確保され、勤労者がいきいきと働いている。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会							環境					経済				全体	
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段	
	1	2	3	4	5	10	16	6	7	13	14	15	8	9	11	12	17	
							○											○

2 指標の推移等

内容	単位	基準値	後期基本計画期間中の実績値					目標値 (R8)	
			R4	R5	R6	R7	R8		
アンケート指標 環境・体制に関する評価① 市内に勤める知人や友人がいきいきと働いている R4年度実績値の理由 引き続き新型コロナの影響を指摘する否定的評価が多く、前年と横ばいの実績となった。 回答者自身の実践状況① (設定なし) R4年度実績値の理由	%	(R3) 33.6	33.8						↗
統計指標 長野市勤労者共済会への加入者割合 市内の中小企業勤労者数に占める長野市勤労者共済会の会員数の割合 (4月1日時点) R4年度実績値の理由 商工労働課 会員数が減少したが、勤労者数も減少したためほぼ横ばいの実績となった。	%	(R2) 11.2	11.2						11.3

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R4年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> 勤労者福祉施設の管理運営を指定管理者に委託し、各種講座を開催するなど利用促進を図った。 補助金を交付している長野市勤労者共済会では、施設利用補助券を全会員に配布することで利用者の拡大やサービスに繋がった。また、会員数の増加を目指し、ダイレクトメール発送や商工会議所の会報等に掲載するなど周知に努めた。 勤労者の住宅資金、生活資金等の貸し付け原資として、長野県労働金庫に資金を預託し協調融資制度を実施した。
---	--

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題 (該当ゴール及び三側面のバランス)
時代の変化とともに個々の求める余暇活動などが多様化している中、健康維持活動や余暇活動に限らず、勤労者福祉の充実を図っていく必要がある。	いきいきと働くためには、若者、女性、高齢者などすべての労働者に働きがいのある時代に合った働き方や安定的な労働環境を促進する必要がある。
上記課題の解決に向けて必要なこと (課題解決に向けてやるべきこと)	
<ul style="list-style-type: none"> 働きやすい環境の整備など働き方改革を推進するとともに、長野市勤労者共済会にあっては事業の利便性を向上させ新規会員の獲得に向け、一層のPRに協力する。 協調融資制度では、利用者増加に向けて、利用者のニーズやさらに優位性が保てる融資商品の提案を求めていく。 勤労者福祉施設については、施設再編の方針に沿って、年齢や性別に関わりなく勤労者のワーク・ライフ・バランス実現を支援する施設を目指し、整備を進める。 	

分野7 快適に暮らし活動できるコンパクトなまち「ながの」(都市整備分野)

政策1 いきいきと暮らせる魅力あるまちづくりの推進

施策1 地域の特性に応じた都市機能の充実 …施策番号 50

施策2 暮らしを支える生活機能の維持 …施策番号 51

施策3 多世代のだれもが暮らしやすいまちづくりの推進 …施策番号 52

施策4 地域の特色を活かした景観の形成 …施策番号 53

政策2 拠点をつなぐネットワークの充実

施策1 地域のまちづくりと一体となった公共交通の構築 …施策番号 54

施策2 拠点をつなぐ交通ネットワークの整備 …施策番号 55

7-1-1

1 施策の概要

施策番号	50 (7-1-1)	分野横断 テーマ① まち	
分野	都市整備分野	担当部局	都市整備部
政策	いきいきと暮らせる魅力あるまちづくりの推進	担当課	都市計画課
施策	地域の特性に応じた都市機能の充実		
施策の 目指す状 態	中心市街地や鉄道駅周辺など都市拠点となるべき地域における人口密度が維持され、市民生活へのサービスの提供可能な都市機能が集約し、居心地の良い空間が形成されている。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会						環境					経済				全体	
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
	1	2	3	4	5	10	16	6	7	13	14	15	8	9	11	12	17
							○					○		○	○		○

2 指標の推移等

内 容	単位	基準値	後期基本計画期間中の実績値					目標値 (R8)
			R4	R5	R6	R7	R8	
環境・体制に関する評価①	%	(R3) 50.4	47.4					↗
R4年度実績値の理由		中心市街地に「魅力ある商業施設」及び「駐車場の不足」の声が複数の世代から寄せられた						
回答者自身の実践状況①		(設定なし)	-	-	-	-	-	-
R4年度実績値の理由								
人口密度	居住誘導区域の人口密度	(R2) 50.6	50.2					50.1
R4年度実績値の理由	都市計画課	市街化区域内人口が概ね維持されており、居住誘導区域の人口密度も概ね維持できた。						
人口割合	居住誘導区域の人口割合	(R2) 75.8	76.4					76.0
R4年度実績値の理由	都市計画課	市街化区域内人口が概ね維持されていることで、居住誘導区域の人口割合も概ね維持できた。						

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R4年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	都市計画マスタープランの基本方針である集約型都市構造に対応する土地利用の実現のため、令和4年9月に長野市立地適正化計画の改定をおこなった。 都市再生特別措置法に基づき、一定の区域に人口や都市機能を誘導していくため、居住誘導区域外での開発行為や建築行為について事前の届出を徹底させた。
---	--

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDG s の視点からの課題 (該当ゴール及び三側面のバランス)
集約型のまちづくりを進めるには、計画的な規制・誘導が必要である。特に近年は人口減少とともに、都市全体が低密度化している問題に加え、自然災害への対応など防災まちづくりの推進の観点から総合的な対策が必要である。	快適に暮らし活動できるまちづくりに際しては、都市機能の集約施策を推進すると共に、近年、頻発・激甚化する自然災害に対応するため「災害に強いまちづくり」の観点を加えた総合的な対策が必要である。
上記課題の解決に向けて必要なこと (課題解決に向けてやるべきこと)	
都市計画マスタープランに基づき個別具体の都市計画を誘導し、中心市街地や鉄道駅周辺などについては低・未利用地の有効活用を図るほか、都市拠点としての機能を高めて集約型のまちづくりを進めるために立地適正化計画に関連する支援策、取り組み状況などについてパンフレット等で情報提供することで周知を図る。 都市計画マスタープラン及び立地適正化計画に即した都市づくりの実現に向け、区域区分の見直し作業等を引き続き検討し、関係機関と調整及び協議を進めていく。	

7-1-2

1 施策の概要



施策番号	51 (7-1-2)		
分野	都市整備分野	担当部局	建設部
政策	いきいきと暮らせる魅力あるまちづくりの推進	担当課	道路課
施策	暮らしを支える生活機能の維持		
施策の目指す状態	市民の暮らしを支える都市基盤や日常生活に必要な機能が維持されている。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会							環境					経済			全体	
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
	1	2	3	4	5	10	16	6	7	13	14	15	8	9	11	12	17
							○	○						○	○		○

2 指標の推移等

内容	単位	基準値	後期基本計画期間中の実績値					目標値 (R8)
			R4	R5	R6	R7	R8	
環境・体制に関する評価① 日常生活に必要なインフラが整備されている	%	(R3) 56.3	54.7					↗
R4年度実績値の理由	大きな変動はないものの、公共交通の利便性の向上を求める意見が目立っている。							
回答者自身の実践状況①	-	(R3) -	-	-	-	-	-	-
R4年度実績値の理由								
統計指標 上水道管路の耐震化率	%	(R2) 15.2	16.2					17.7
R4年度実績値の理由	水道整備課	老朽管解消事業などで耐震管を9,855m布設したことによる。						

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R4年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	生活道路、上下水道や情報通信網など生活を支える都市基盤について、計画的に改修、更新を実施した。
---	---

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題（該当ゴール及び三側面のバランス）
生活道路、上下水道や情報通信網など生活を支える都市基盤を将来にわたって健全な状況を維持していくため、計画的に改修、更新を実施していく必要がある。過疎化が進む中山間地においては、施設の複合化などの取組を進める。	都市基盤の強化に際しては、社会や環境の側面にも配慮し、持続可能な、社会・環境・経済の統合的なインフラ整備とすることが必要である。
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
インフラ施設を持続的に健全に保つためには、将来的に維持費の増大が見込まれるため、計画的なメンテナンスの実施や新技術の導入など、財政負担の軽減、平準化を図る必要がある。	

7-1-3



1 施策の概要

施策番号	52 (7-1-3)	担当部局	建設部
分野	都市整備分野	担当課	建築指導課
政策	いきいきと暮らせる魅力あるまちづくりの推進		
施策	多世代のだれもが暮らしやすいまちづくりの推進		
施策の目指す状態	だれもが気軽にまちなかを移動でき、地域の魅力を活かした暮らしやすい住環境が整っている。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会							環境					経済				全体	
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段	
	1	2	3	4	5	10	16	6	7	13	14	15	8	9	11	12	17	
						○	○									○		○

2 指標の推移等

内容	単位	基準値	後期基本計画期間中の実績値					目標値 (R8)
			R4	R5	R6	R7	R8	
環境・体制に関する評価① 市内の道路、建物のバリアフリー化が進んでいる	%	(R3) 31.4	30.4					↑
R4年度実績値の理由			大きな変化はないが、肯定的評価である「そう思う・ややそう思う」の回答割合が1.0ポイント減少したため。					
回答者自身の実践状況①	-	(R3) -	-	-	-	-	-	-
R4年度実績値の理由								
統計指標 道路施設における歩行空間の整備	①km ②km ③箇所	(R2) ① 296.8 ② 89.8 ③ 391	① 297.7 ② 90.2 ③ 403					① 303.0 ② 93.0 ③ 420
R4年度実績値の理由	道路課	長野駅東口区画道路の歩車道段差解消を重点的に実施した。						

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R4年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> 民間の高齢者、障害者等が利用する建築物や、多くの人が利用する建築物については、高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー法）、長野県福祉のまちづくり条例及び長野市福祉環境整備指導要綱に基づく整備基準を満たすように指導及び助言を行うとともに、公共建築物についても、整備基準を満たすよう勧めることで、ユニバーサルデザインの導入を図った。 障害者や高齢者など、すべての人にやさしいユニバーサルデザインを取り入れた道路の整備については、道路交差点における歩車道の段差解消、視覚障害者誘導用の点字ブロックを設置することで安全な歩行空間の整備を図った。
---	--

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題（該当ゴール及び三側面のバランス）
<ul style="list-style-type: none"> 建築物のバリアフリー化の促進に努める。 誰もが気軽に街なかを移動できる歩行空間を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 障害者や高齢者等の人々が、安全で快適に暮らし活動できるよう建物のバリアフリー化の促進に努める。 誰もが気軽に移動できる道路環境の整備については持続可能な都市及び居住環境を実現する。
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
<ul style="list-style-type: none"> 民間の建築物については、引き続き、関係法令に基づく適正な整備に向けた指導及び助言を行うとともに、公共の建築物については、高齢者や障害者を含むすべての人々が、円滑に利用できるよう、人にやさしい建築物の更なる整備を図っていく。 道路の歩道空間の整備として、段差解消は中心市街地がほぼ完了したことから、郊外の住宅地等の歩行者の多い箇所を優先整備する。点字ブロックや歩道整備については、関係団体の意見や通学路としての利用状況などを勘案しつつ整備を進めるとともに、道路改良に合わせた整備にも積極的に取り組む。 	

7-1-4

1 施策の概要



施策番号	53 (7-1-4)		
分野	都市整備分野	担当部局	都市整備部
政策	いきいきと暮らせる魅力あるまちづくりの推進	担当課	まちづくり課
施策	地域の特色を活かした景観の形成		
施策の目指す状態	豊かな自然環境と調和した景観や、地域固有の歴史・文化が感じられる景観が形成されている。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会							環境					経済				全体
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
	1	2	3	4	5	10	16	6	7	13	14	15	8	9	11	12	17
							○					○			○		○

2 指標の推移等

内容	単位	基準値	後期基本計画期間中の実績値					目標値 (R8)
			R4	R5	R6	R7	R8	
環境・体制に関する評価① 景観やまちなみが美しい地域である	%	(R3) 59.6	62.4					→
R4年度実績値の理由	景観やまちなみに関して、地域の活動や市の施策が行われており、美しい地域と感じる意識は一定の評価である。							
回答者自身の実践状況① 家のまわりの緑化や美化など、美しい景観づくりを心がけている	%	(R3) 71.9	71.7					→
R4年度実績値の理由	市民一人ひとりの美しい景観づくりへの意識が高く、その結果が数値に反映している。							
統計指標 道路美装化延長	km	(R2) 8.62	9.00					9.00
R4年度実績値の理由	まちづくり課	地域の特色を活かした景観を計画的に整備するため、戸隠地区において道路美装化 (L=0.14km) を進めた (令和5年度に繰越し)。						

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R4年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> 戸隠地区において、国の重要伝統的建造物群保存地区である歴史的な町並みの魅力を高めるため、地域住民及び関係機関と協議を行いながら、道路美装化を進めた。 若穂地区において、関係者と協議を行いながら、地域の景観の核となる景観重要建造物の整備助成を1件実施した。 良好な景観形成の啓発として、長野市景観賞に4件、花と緑大賞に15件を選定し顕彰した。
---	--

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題 (該当ゴール及び三側面のバランス)
地域固有の歴史・文化が感じられる景観形成には、歴史的建造物の保全とともに、建造物と一体となり歴史的風致を形成する周辺環境についても地域特性を十分に考慮した整備が必要である。 また、建造物の保全や周辺環境の整備を住民による主体的な取り組みにつなげていく必要がある。	地域の特色を活かした景観形成には、地域特性を十分に考慮した整備計画を基に一貫性を持ちながら、住民の主体的な参画、住民と行政の協働により取り組む必要がある。
上記課題の解決に向けて必要なこと (課題解決に向けてやるべきこと)	
事業実施に先立ち住民や関係団体と協議を行うなど、地域の理解を得ながら整備を進めるとともに、地域の歴史を生かした住民活動、祭礼や伝統行事などの情報発信、また、顕彰制度により景観に対する住民意識の高揚を図る。	

7-2-1

1 施策の概要



施策番号	54 (7-2-1)	担当部局	企画政策部
分野	都市整備分野	担当課	交通政策課
政策	拠点をつなぐネットワークの充実		
施策	地域のまちづくりと一体となった公共交通の構築		
施策の目指す状態	だれもが利用しやすい公共交通が構築され、多くの人々が利用している。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会							環境					経済				全体
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
	1	2	3	4	5	10	16	6	7	13	14	15	8	9	11	12	17
							○		○	○				○	○		○

2 指標の推移等

内容	単位	基準値	後期基本計画期間中の実績値					目標値 (R8)
			R4	R5	R6	R7	R8	
環境・体制に関する評価① 公共交通の利用により、市内を移動できる環境が整っている	%	(R3) 34.1	30.9					→
R4年度実績値の理由 新型コロナウイルス感染症の影響により、民間バス路線の廃止代替路線への移行、バス・鉄道の運行便数の減少による影響と考えられる。								
アンケート指標 回答者自身の実践状況① 通勤、通学、通院などの移動手段として、公共交通機関を日常的に利用している	%	(R3) 20.4	20.6					→
R4年度実績値の理由 新型コロナウイルス感染症の影響があるものの、日常的利用においては変化はみられない。								
回答者自身の実践状況② 公共交通を、自らの暮らしや地域を維持するために必要なものであると理解し、支えていこうと心がけている	%	(R3) 48.7	48.5					→
R4年度実績値の理由 公共交通の利用範囲に変化がないことから、市民意識の変化はみられない。								
統計指標 公共交通利用回数 市民一人当たりのバス・鉄道などの公共交通機関を利用した回数	回/人	(R2) 100.7	R5.11 予定					137
R4年度実績値の理由 交通政策課		令和4年度実績値は未集計(令和5年11月以降に集計)						

3 目標達成に向けた取組内容と実績


R4年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通網の確保・維持 A I オンデマンドシステムによる中山間地域のデマンド運行の実施に向け、信州新町地区で実証実験を実施 ICカードKURURUの運用、管理 Suica機能を有した地域連携 ICカードへの移行の準備を進め、利便性向上に取り組んだ 利用促進 ICカードKURURU無料の日を設定し、利用促進を図ったほか、小学2年生を対象とした乗り方教室に合わせ、保護者と利用できる無料チケットを配布した。
---	--

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題 (該当ゴール及び三側面のバランス)
<ul style="list-style-type: none"> 人口減少やライフスタイルの多様化に伴い、公共交通の利用者が減少している。 現状の運行を維持するための、経費(車両の維持費、赤字補填等)が年々増大している。 運行事業者においては運転手不足が顕著であり、路線の維持が困難な状況となっている。 	自動車中心社会において、移動を制約される交通弱者などが、安全かつ容易に利用でき、環境に配慮した公共交通ネットワークを持続可能とする必要がある。
上記課題の解決に向けて必要なこと (課題解決に向けてやるべきこと)	
<ul style="list-style-type: none"> 長野市地域公共交通計画に基づき、①公共交通のネットワーク再構築・運行、②運行環境の整備・利便性向上、③啓発・利用促進に取り組む。 令和5年に取り組む事業としては、A I オンデマンド交通システムのエリアの拡大準備、地域連携ICカードの導入準備、廃止路線代替バス等市が運行する路線の見直し、ながのスマート通勤応援事業の実施等を行う。 	

7-2-2

1 施策の概要

施策番号	55 (7-2-2)		
分野	都市整備分野	担当部局	企画政策部
政策	拠点をつなぐネットワークの充実	担当課	交通政策課
施策	拠点をつなぐ交通ネットワークの整備		
施策の目指す状態	自家用乗用車に過度に頼らず、中心市街地、観光地などの拠点や生活機能の拠点を移動できる交通ネットワークが形成されている。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会							環境					経済			全体		
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段	
	1	2	3	4	5	10	16	6	7	13	14	15	8	9	11	12	17	
							○		○	○					○	○		○

2 指標の推移等

内容	単位	基準値	後期基本計画期間中の実績値					目標値 (R8)	
			R4	R5	R6	R7	R8		
環境・体制に関する評価①	[再掲：公共交通の利用により、市内を移動できる環境が整っている]	%	(R3) 34.1	30.9					→
R4年度実績値の理由	新型コロナウイルス感染症の影響により、民間バス路線の廃止代替路線への移行、バス・鉄道の運行便数の減少による影響と考えられる。								
アンケート指標	回答者自身の実践状況①	%	(R3) 20.4	20.6					→
R4年度実績値の理由	新型コロナウイルス感染症の影響があるものの、日常的利用においては変化はみられない。								
回答者自身の実践状況②	[再掲：公共交通を、自らの暮らしや地域を維持するために必要なものであると理解し、支えていこうと心がけている]	%	(R3) 48.7	48.5					→
R4年度実績値の理由	公共交通の利用範囲に変化がないことから、市民意識の変化はみられない。								
統計指標	公共交通利用回数 (再掲：施策番号54)	回/人	(R2) 100.7	R5.11 予定					137
R4年度実績値の理由	交通政策課	令和4年度実績値は未集計(令和5年11月以降に集計)							
自転車通行空間の総延長	自転車道などの総延長	km	(R2) 11.40	17.70					32.80
R4年度実績値の理由	道路課	県道真田線の開通及び千曲川新道(松代)の一部供用開始等によるもの							

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R4年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> 自転車通行空間等の整備として、市営自転車駐車場(三才駅)へのサイクルスタンドの設置や、北長野駅南口自転車駐車場の屋根修繕及び照明LED化工事を行った。 長野市自転車活用推進計画に基づき、三輪幹線等への矢羽根型路面標示の設置など具体的な施策に取り組んだ。また、松代・若穂地区の拠点を結び、地域・観光振興を目的とした自転車道・遊歩道(千曲川新道)については、地元との合意による優先順位に基づき整備を行い、一部で供用開始した。 Maas等の利用に向けた整備として、GTF Sのデータ化を進めた。
--	--

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題(該当ゴール及び三側面のバランス)
<ul style="list-style-type: none"> 老朽化が進む駐輪場については、計画的な改修等の長寿命化により、利用環境の改善を図り、適正に維持管理する必要がある。 自転車通行空間の整備については、自転車ネットワーク計画に基づき利用者の利便性と安全性向上のため計画的に進める必要がある。また千曲川新道については、地元との協議により通学路として活用できる箇所を優先的に整備する必要がある。 Maas等の利用については、市内のバス路線データをグーグルマップ等で確認できるよう整備し、その状態を継続的に管理していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通機関や自転車等の利用を促進し、環境に負荷のかからない交通手段に乗り換える必要がある。
上記課題の解決に向けて必要なこと(課題解決に向けてやるべきこと)	
<ul style="list-style-type: none"> 老朽化が著しい駐輪場の再整備と、破損した駐輪ラック等の計画的な更新、防犯対策を進める。 自転車ネットワーク計画に基づき、道路管理者と連携を図りながら、自転車通行空間の整備を進める。また、千曲川新道については地元協議の上、計画的に境界立会いや測量設計を実施する。 GTF Sデータの管理にノウハウの継承が必要なことから、事業者とともに連携して体制を構築する。 	